

実験漁場におけるホタテガイ モニター養殖試験 (昭和55年産貝—II)

田中 俊輔・三戸 芳典・青山 禎夫

本試験は、青森県水産増殖センターの実験漁場で垂下養殖ホタテガイの成育状況を監視することにより、陸奥湾におけるホタテガイの状況を把握し、へい死を再発させない養殖技術の指導・定着を図ることを目的として行った。本試験について、稚貝採取から第2回分散までは、既に三戸他の報告¹⁾があるので、ここでは川内実験漁場において57年4月20日に取り揚げた時の状況について述べる。

取り揚げ時の概要

取り揚げ時におけるホタテガイ(最善法:稚貝採取 100 個/パ → 第1回分散 20 個/パ → 第2回分散(春) 10 個/丸)の平均殻長は、 108.23 ± 8.46 mm、平均全重量は 149.09 ± 27.58 gであった。また、第1回分散から取り揚げ時までの積算生存率は91%(今回測定したホタテガイについては $\frac{92}{100} \times 100 = 92\%$)、異常貝出現率は8%であった。

10,000個のホタテガイから中間育成を始めた場合の取り揚げ時における粗収入を、取り揚げ時における規格別出現頻度と単価(円/kg)から試算した。

第1表 第1回分散時にホタテガイ10,000個を垂下養殖した時の粗収入

規格	g/個	規格別出現率%	個×生存率×出現率×kg/個×円/kg ¹⁾ ²⁾
M	243.9 - 196.0	7	$10,000 \times 0.91 \times 0.07 \times 0.196 \times 290 = 36.513$
S	196.0 - 164.0	13	$10,000 \times 0.91 \times 0.13 \times 0.164 \times 280 = 54.783$
ESA	164.0 - 140.8	39	$10,000 \times 0.91 \times 0.39 \times 0.141 \times 270 = 136.253$
ESB	140.8 - 123.5	28	$10,000 \times 0.91 \times 0.28 \times 0.124 \times 260 = 82.842$
ESC	123.5 - 109.9	9	$10,000 \times 0.91 \times 0.09 \times 0.110 \times 250 = 22.564$
ESD	109.9 - 99.0	0	$10,000 \times 0.91 \times 0.00 \times 0.099 \times 240 = 0.000$
ESE	99.0 - 76.9	4	$10,000 \times 0.91 \times 0.04 \times 0.077 \times 230 = 6.458$
			339.413

1) 各々の規格の下限を使った 2) 青森県漁連入札 57.4後期(川内)による。

第1表に示したように、稚貝第1回分散時に10,000個のホタテガイを垂下養殖したとすると取り揚げ時のホタテガイ1個の値段は33円94銭になる。

なお、取り揚げたホタテガイを、川内町、むつ市、横浜町、野辺地町の各漁業協同組合に運搬し、丸籠から出しながら養殖試験結果を漁協職員、関係漁業者に報告した。

参 考 文 献

1) 三戸他:実験漁場におけるホタテガイモニター養殖、青水増事業概要第11号 100 - 105 頁